

心理学

基礎科目 / 4 単位 / TM 授業

担当教員 三宅 邦建（テキスト・メディア担当）
加藤由美・栗山和広・高山巖・田中陽子・前田直樹（メディア部分担当）

■使用テキスト 社会福祉士養成講座編集委員会(編)
『新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援 第3版』中央法規出版 2015

◆参考テキスト 別になし

講義概要・一般目標

最も受け入れられている心理学の定義は、「人間の心と行動を科学的に研究する学問」である。この講座では一般教養としての心理学の基礎と心理学の福祉・臨床的応用とを学ぶ。テキストの目次を一読すればわかるように、心理学は非常に幅の広い学問である。幅の広さを楽しみ、そして日常生活や福祉領域等の仕事への応用を考えながら、受講生は学習を進めていくことが重要である。

添削課題1は、第1章から7章までをカバーし、添削課題2では第8章と第13章までをカバーする。（単位認定試験の内容と形式は添削課題に準じたものになる。）

到達目標

- 1) 人間行動に関する基礎的な知識を得る
- 2) 得られた知識を現実の場（生活や仕事）に応用できる

評価方法

T部分：科目単位認定試験により評価。

M部分：提出レポートにより評価。

学習指導

第1章 性格

この章のポイント

この章のポイント：性格理論の基礎（類型論や特性論等）と心理検査・アセスメント、そしてその問題点について学ぶ。

キーワード（概念）：クレッチマーの類型論、ユングの類型説、特性論、矢田部ギルフォード性格検査、ビッグファイブ、質問紙法、投影法、テストバッテリー

第2章 感情

この章のポイント

この章では、感情の基礎的理解から始め、子ども、青年期・成人期、高齢期の感情の特徴を学ぶ。感情の発達とその役割を理解する。

キーワード（概念）：感情・情動・気分・情緒、感情の発達、新生児微笑、社会的微笑、愛着（アタッチメント）、感情コンピテンス、双極性障害、高齢者のうつ病

第3章 欲求と動機づけ

この章のポイント

欲求の基礎理論と動機づけのさまざまな理論を最初に学ぶ。次に、欲求不満の解消や適応の問題にも触れる。

キーワード（概念）：一次欲求・二次欲求、マズローの欲求階層、自己実現欲求、成長欲求・欠乏欲求、誘因、達成動機、内発的動機づけ、外発的動機づけ、有能感、原因帰属理論、自己効力感、学習性無力感、ロカス・オブ・コントロール、統制の所在、内的統制・外的統制、葛藤、二重接近一回避葛藤、欲求不満、欲求不満耐性、防衛機制、抑制、抑圧、その他の防衛機制

第4章 感覚・知覚・認知

この章のポイント

この章では、感覚・知覚・認知の基礎的理解を深める。

キーワード（概念）：絶対閾、弁別閾、明反応・暗反応、図と地、群化、知覚的補完、大きさの恒常性、奥行き知覚、奥行き手がかり、単眼手がかり、両眼手がかり、異方性、実際運動、錯視、選択的注意、カクテルパーティ現象、メタ認知、認知地図

第5章 学習・記憶

この章のポイント

この章では、学習理論と記憶理論を学び、日常生活への応用を考え、高齢者の記憶について考える。

キーワード（概念）：パブロフのレスポナント条件付け、古典的条件付け、強化、無条件刺激、条件刺激、オペラント条件づけ、スキナー箱、正の強化、負の強化、正の罰、負の罰、強化スケジュール（4つ）、試行錯誤学習、洞察学習、バンデューラの観察学習、短期記憶・長期記憶、作動記憶、エピソード記憶、手続き記憶、加齢と記憶、展望的記憶

第6章 知能・創造性・思考

この章のポイント

この章では、知能・創造性・思考の基礎理解から始め、知能の発達とその測定、さらには、知能と創造性の関連性について学ぶ。

キーワード（概念）：知能、創造性、収束的思考・発散的思考、ウェクスラー式知能検査、WISC、WAIS、精神年齢、IQ、流動性知能・結晶性知能、ピアジェの発達理論、創造性、創造性と知能の関係、再生的思考、創造的思考

第7章 人間環境と集団

この章のポイント

この章では、社会心理学の領域である人間関係、そして集団のダイナミクスを学ぶ。さらには、福祉現場での対人関係、組織風土への応用を学ぶ。

キーワード（概念）：権威主義的パーソナリティ、自己成就予言の効果、対人魅力、自己開示、社会的浸透過程、集団凝集性、ソシオメトリック・テスト、ソシオグラム、規範、社会的アイデンティティ、リーダーシップ機能、組織変革とリーダーシップ、感情労働、バーンアウト、ソーシャルサポート、道具的サポート・社会情緒的サポート、流言

第8章 対人交流とコミュニケーション

この章のポイント

コミュニケーションの基礎、ならびに対人援助場面でのコミュニケーションについて学ぶ。

キーワード（概念）：コミュニケーションの要素、説得的コミュニケーション、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、パーソナル・スペース、外見と印象形成、相談場面の着席位置、アクティブ・リスニング、アサーション、言語的アサーション、カウンセラーとアサーション

第9章 発達概念

この章のポイント

生涯発達の視点から高齢期までの発達を考える。更には、障害児の発達、発達検査についても学ぶ。

キーワード（概念）：発達と成長、発達の遺伝的要因・環境的要因、臨界期、刷り込み、新生時期、スカモンの発達曲線、発達の段階説と発達課題、ピューラーの説、エリクソンの説、ピアジェの説、アタッチメント（ボウルビー）、アイデンティティ、ハイリスク児、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害、発達障害児の心理的発達と支援、高齢者の発達課題、超高齢期の発達課題、サクセスフル・エイジング

第10章 適応とストレス

この章のポイント

ストレスの心理学理論とストレス対処を学ぶ。自分の日常生活と関連付けて学ぶと分かりやすい。

キーワード（概念）：ストレス・ストレッサー・ストレス反応、恒常性維持（ホメオスタシス）キャノンの理論、セリエの一般適応症候群（警告、抵抗、疲弊）、社会的再適応評価尺度（ホームズ、レイ）、ライフイベント、日常のいら立ちごと、心理社会的ストレスモデル（ラザルス、フォルクマン）、ハーディネス、楽観主義、タイプA行動パターン、バーンアウトの症状、外傷後ストレス障害、物質関連障害

第11章 面接・見立て・心理療法

この章のポイント

カウンセリング、心理療法の理論を学ぶ。カウンセラー・相談職を目指す人にとっては重要な章になるだろう。

キーワード（概念）：臨床心理士とソーシャルワーカー、見立て、質問紙法、投影法、主題統覚検査、絵画欲求不満検査、作業法、面接と見立て、パーソンセンタード・カウンセリング、精神分析とセラピー、系統的脱感作、エリスの論理情動理論、クライアント中心療法、動作法、ブリーフ・サイコセラピー、心理劇、社会生活技能訓練（SST）

第12章 脳と心

この章のポイント

人間の行動や思考をつかさどる脳の構造と機能を学び、機能障害、リハビリテーションへの知見を広める。

キーワード（概念）：大脳の構造（前頭葉、側頭葉、他）、大脳辺縁系、高次脳機能障害、記憶障害、高次脳機能障害と病識、神経心理学的ピラミッド、記憶障害のリハビリテーション

第13章 現場に活かす心理学

この章のポイント

現場で心理学の学習や知識がどのように活用されているか、社会福祉の専門職の声を聞く。

メディア教材

このクラスでは、メディア教材がついています。全部で6人の心理学者が心理学の分野の概説を始め、臨床心理学、社会心理学など多彩な内容を語っている。受講生は、メディア教材もテキスト同様に学習することになる。『学習』というより楽しく見てほしいと考えるが、このメディア教材のレポート課題を提出することになる。